

平成 27 年 8 月 6 日

各 位

会 社 名 オンコリスバイオファーマ株式会社
代表者名 代表取締役社長 浦田 泰生
(コード番号：4588)
問合せ先 常 務 取 締 役 六反田 靖
管 理 担 当
(TEL. 03-5472-1578)

抗がん剤パイプラインの拡充に関するお知らせ

当社は平成27年8月6日に新たな腫瘍溶解ウイルスとして『OBP-702』及び『OBP-405』を開発品目に追加し、抗がん剤パイプラインを拡充することを決定しましたのでお知らせします。

現在、当社はがん領域の医薬品開発において、肝細胞がん及び食道がん患者を対象に腫瘍溶解ウイルスOBP-301（テロメライシン）の開発を行っています。この度、テロメライシンの構造を一部改変した新たな腫瘍溶解ウイルス『OBP-702』及び『OBP-405』を開発パイプラインに加えることになりました。

OBP-702は、がん化した細胞を自然死（アポトーシス）させる代表的ながん抑制遺伝子であるp53を組み込むことによって、より有効性を高めた腫瘍溶解ウイルスです。ウイルス増殖によるがん細胞攻撃に加えて、がん細胞にアポトーシスを招く遺伝子治療を組み合わせることで、相加的な抗がん活性をもたらすことが期待されます。

また、OBP-405は、テロメライシンのがん細胞への感染力をより高めた腫瘍溶解ウイルスです。ウイルスはがん細胞の表面に結合することによって細胞内に感染します。OBP-405は、ウイルスが持つその結合機能をより強力にすることで特定の細胞への感染力を高め、より広いがん種における強い抗がん活性が期待されます。

最近のがん治療薬は、チェックポイント阻害剤をはじめとするがん免疫療法や当社が開発中の腫瘍溶解ウイルスなど、新たなコンセプトに基づく抗がん剤の開発が進められています。また、がん治療における安全性の確保や有効性向上の観点から、単一の治療ではなく複数の治療を並行して用いる併用療法が中心になりつつあり、新規抗がん剤を他の治療法と組み合わせることで、新たな治療法を開発することが、がん治療の現場で求められています。

当社は新たなコンセプトに基づく抗がん剤である腫瘍溶解ウイルスのパイプラインを拡充するとともに、他の治療法との併用療法を開発することで、がん治療現場の新しい治療法選択に貢献することを目指します。

なお、本件による本年度業績への影響はございません。

以 上